

地域に根ざした森林環境教育の取組について

下北森林管理署

下北森林管理署では、美しい森林を後世に残すための様々な取組や地域の小学校等対象とした森林教室等を行っており、本年度に実施した取組の一部をご紹介します。

○「森と湖に親しむつどい」を開催

7月9日(木)、下北地域県民局、むつ市と共催で川内ダム湖周辺において、第21回森と湖に親しむつどいを実施しました。

この催しの目的は、森と湖に親しむ機会を提供することによって、参加者の心身をリフレッシュし、明日への活力を養うとともに、森林やダム、河川等の重要性について、関心を高め理解を深めることを目的としています。

今年度は、むつ市立川内小学校4年生18名、むつ市脇野沢小学校4年生9名、引率の先生方4名の総勢31名の参加がありました。

2校をそれぞれ、1班、2班とし、片方の班がダム見学をしている時間に、片方の班が森林教室や木工品制作、丸太切りを体験し、最後に全員でヤマメの放流体験(700匹)をするという内容です。

森林教室では、当署職員が森林の機能、治山の目的、治山ダム等の概要について説明し、その後木工品制作に移りました。

木工品制作では、地元、下北産ヒバをつかったミニチェア作りです。

当署職員の説明の後児童の皆さんは真剣にヒバミニチェアキッドを作成していました。なかには、金槌をうまく使えない児童もいて悪戦苦闘していましたが、完成したミニチェアにそれぞれ、思い思いに好きな絵を描いて楽しんでもらいました。また、「ヒバのにおいがスキ」、「いいにおい」といった声があり地域の代表樹種であるヒバの認識もしてもらえたと考えています。

最後に丸太切りです。



(森林教室の様子)



(木工品制作の様子)

当日は好天に恵まれたこともあり、児童の皆さんは汗を掻きながら丸太と悪戦苦闘していました。

このコーナーは毎回人気があり、伐った丸太をコースターにしたいとか、何回も挑戦して腕自慢する児童もいて、これからも引き続き実施したいと改めて感じました。

この催しをとおして、児童達に、“森林の大切さ”、“木のぬくもり”、“郷土樹種の認識”等、『森林』が重要であることが理解できたと考えております。



(丸太切りの様子)

○奥内小学校森林教室を開催

9月17日(木)に、むつ市立奥内小学校4、5、6年生22名の児童を対象に出前森林教室を実施しました。

今回の森林教室は、「森のはたらき×森ではたらく」をテーマに森林の理解を深めてもらい、森林管理署の仕事についても学んでもらうものです。

「森のはたらき」では、森林の水を蓄える機能、生き物のすみかとなる機能など説明をし、下北半島の北限のサルが世界の北限のサルであること、日本全体の木の育つ量を合わせると10秒ぐらいで一軒の家が建つ事など、クイズ形式で楽しんでもらいました。

「森ではたらく」では、造林、生産、治山、ふれあい、森林パトロールなど、森林管理署の仕事を写真を交えながら説明しました。

児童の皆さんからは「とてもためになった」、「森のことがよく分かった」など嬉しい声をいただくことができました。

小学校の先生からは、来年度も同様の出前森林教室を是非開催して欲しいとの要望をいただき、森林環境教育の一端を担うことができました。



(説明の様子)



(真剣な眼差しの児童の皆さん)